



本メールマガジンは山梨大学 新技術情報クラブ会員の皆様へ最新情報をお知らせする目的で配信しております。メール配信を希望されない方は、「配信停止」とお書きの上、ご返信ください。

■ メールマガジン 目次

| | |
|------------|--------|
| 01： 公募情報 | (3 件) |
| 02： イベント案内 | (2 件) |
| 03： プレス情報 | (1 件) |



■ 01: 公募情報(3 件)

【目次】

- (1) 山梨県 平成 28 年産業振興事業費補助金
～ダイナミックやまなしイノベーション研究開発補助金～の募集について
- (2) NEDO「平成 28 年度 戦略的基盤技術高度化支援事業
(プロジェクト委託型)」に係る公募
- (3) 「IoT 推進のための社会システム推進事業「スマート工場実証事業」
公募開始のお知らせ

(1) 【山梨県 公募開始】(公募期間：4/26～6/3)

山梨県 平成 28 年産業振興事業費補助金
～ダイナミックやまなしイノベーション研究開発補助金～の募集について
<http://www.pref.yamanashi.jp/shinjigyo/kenkyukaihatsu/sangyoshinko.html>

●補助金制度の目的

山梨県のものづくり産業の活性化を図るため、今後成長が期待される産業分野への進出を促進し、経営革新や業種転換を進める中小企業の研究開発を支援することにより、本県産業の高度化と競争力の高い産業集積の形成を図ることを目的としています。

また、本年度からは、新たに国立研究開発法人産業技術総合研究所との共同による研究開発に対して、特別枠を設け、産学官連携による研究開発を促進していきます。

●募集期間

第一次募集：平成 28 年 4 月 26 日(火曜日)～平成 28 年 6 月 3 日(金曜日)
第二次募集：平成 28 年 8 月下旬～9 月下旬

●公募書類 : リンク先で入手ください。

募集要項等

<http://www.pref.yamanashi.jp/shinjigyo/kenkyukaihatsu/sangyoshinko.html>

●応募書類提出先

山梨県工業技術センター 企画情報部 総合相談・研究管理科
〒400-0055 甲府市大津町 2094 TEL : 055-243-6111

●お問い合わせ先

山梨県産業労働部 新事業・経営革新支援課 新分野進出担当
〒400-8501 甲府市丸の内 1-6-1 TEL : 055-223-1565

(2) NEDO「平成28年度 戦略的基盤技術高度化支援事業（プロジェクト委託型）」に係る公募

http://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100108.html

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）は、「戦略的基盤技術高度化支援事業（プロジェクト委託型）」に係る研究開発テーマを下記のとおり広く公募します。

●事業内容

(1) 概要

本事業は、国（中小企業庁）が実施する「戦略的基盤技術高度化・連携支援事業～戦略的基盤技術高度化支援事業～」のうち、国が指定するテーマ（以下「特定のテーマ」という。）に沿って、中小企業者等が橋渡し研究機関の能力を活用して行う実用化につながる可能性の高い研究開発・試作品開発（本事業の試作品開発は、研究開発が伴うものに限ります。）に対する支援を、NEDO が国から委託を受けて実施するものです。

なお、本事業の採択にあたっては、以下の[1]～[3]の要件を全て満たす必要があります。

[1] 中小ものづくり高度化法に基づく「法認定計画」を基本とした研究開発であること。

[2] 「特定のテーマ」（添付資料 公募要領 3.2.1(2)参照）の何れかに沿った研究開発等で、それぞれの政策課題の解決に資する新規性・革新性の高い実用化開発を対象とするものであり、研究開発計画を実行し完成した技術・製品が、公共性に資する可能性の高いものであること。

[3] NEDO の確認を受けた「橋渡し研究機関」が、中小企業者等の共同研究等先として参画すること。

(2) 事業期間

2年度又は3年度

(3) 提案書の提出期限

平成28年6月30日(木)正午必着

(4) その他

・過去に戦略的基盤技術高度化支援事業で採択された法認定計画では応募することができません。

・平成28年度戦略的基盤技術高度化支援事業（平成28年6月9日受付締切）に採択されたと、当該認定計画での提案はできませんので、ご注意ください。よって、平成28年度戦略的基盤技術高度化支援事業と本事業の両方に提案され、本事業の採択を目指す場合には、平成28年度戦略的基盤技術高度化支援事業の採択を受ける前に同事業の提案を取り下げてください。必要があります。（※平成28年度戦略的基盤技術高度化支援事業（平成28年6月9日受付締切）において採択を受けた場合には、本事業の提案を取り下げてください。）

●応募方法等→リンク先で確認下さい。

●e-Rad

府省共通研究開発管理システム（e-Rad）に提案内容等をご登録いただく必要がございます。提案内容のご登録方法等、詳細は公募要領等をご覧ください。e-Rad をご利用になるためには、御所属の研究機関（企業、国立研究開発法人、大学等の法人）又は研究者本人が e-Rad に登録され、ログイン ID、パスワードを取得しておく必要がございます。登録方法については以下のページをご覧ください。

なお、e-Rad への登録に日数を要する場合がありますので、2 週間以上の余裕をもって登録手続きをしてください。

●問い合わせ先

イノベーション推進部 プラットフォームグループ

担当者：鹿毛、宮本、阿部、長谷川

TEL：044-520-5175

E-MAIL：itakusapoin28@nedo.go.jp

(3)【経済産業省予算関連 公募受付中】公募期間 4/28～5/31

「IoT 推進のための社会システム推進事業「スマート工場実証事業」公募開始のお知らせ

- ・委託先の公募

<http://www.meti.go.jp/information/publicoffer/kobo/k160428012.html>

- ・補助事業者の公募

<http://www.meti.go.jp/information/publicoffer/kobo/k160428013.html>

製品の設計・生産・販売のそれぞれの工程から得られるデータを活用し、製品の「売り切り」にとどまらず、広く「サービス」や「ソリューション」の提供を含む新たな付加価値の創出に挑戦する製造事業者等を後押しするため、経済産業省は「スマート工場実証事業」を実施します。本事業の平成 28 年度の公募を以下の通り始めました、積極的なご応募お待ちしております。

●公募期間 平成 28 年 4 月 28 日(木)～平成 28 年 5 月 31 日(火)

●公募内容、及び公募説明会の詳細は下記 URL をご覧ください。

(1) 平成 28 年度「IoT 推進のための社会システム推進事業（スマート工場実証事業）」に係る委託先の公募について

<http://www.meti.go.jp/information/publicoffer/kobo/k160428012.html>

(2) 平成 28 年度「IoT 推進のための社会システム推進事業（スマート工場実証事業）」に係る補助事業者の公募について

<http://www.meti.go.jp/information/publicoffer/kobo/k160428013.html>

●お問い合わせについては、以下をお願いします。

〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1

経済産業省 製造産業局 参事官室 担当：長谷川、川森、坂本

【委託事業】E-MAIL：smart-koujou-itaku@meti.go.jp

【補助事業】E-MAIL：smart-koujou-hojo@meti.go.jp

- ・IoT 推進ラボに関するご不明な点などございましたら、下記までメールでお問合せください。

一般財団法人日本情報経済社会推進協会（法人番号：1010405009403）

電子情報利活用研究部 IoT 推進ラボ担当

mail：iot-info@jipdec.or.jp

TEL：03-5860-7557

※受付時間 10:00-17:00（土日、祝日除く）



(1) 5/30 連続市民公開講座 2016

「第 2 回 前立腺がんに対するロボット支援手術」

<http://www.yamanashi.ac.jp/5078>

山梨大学では 2013 年より手術支援装置「ダヴィンチ Si」を用いたロボット支援手術を開始しました。この手術は 1990 年代にアメリカではじまり、2000 年代には日本国内でも行われていましたが、機器が高額で保険適用となる術式がないため、あまり普及していませんでした。しかし前立腺がん手術に保険適用が認められた 2012 年以降多くの病院で導入されています。ロボットアームを用いて医師が内視鏡や鉗子を遠隔操作する手術は、肉眼では見にくい部分を 3D 画像で細部まで観察でき、人間の手指以上に繊細な操作が可能のため「きめの細かい手術」ができます。

本院にはこの手術を行う資格を得た「認定医」が 11 人在籍し、単施設としては国内屈指の数と言えます。人材育成も含めた本院のロボット手術への取り組みについて紹介します。

- 日時・場所 開催日 平成 28 年 5 月 21 日 (土)
- 会場 山梨大学 甲府東キャンパス A2-21 教室 (地図)
- 定員 330 人
- 時間 午後 1:30~3:00 まで (午後 1 時開場)
- 受講料 無料
- 申込み先・問合せ先
〒400-8510 甲府市武田 4-4-37
山梨大学教務課「山梨大学教務課連続市民講座担当」
電話 : 055-220-8043
FAX : 055-220-8796
電子メール : [koukai-kouza@](mailto:koukai-kouza@yamanashi.ac.jp)(アットマーク) [yamanashi.ac.jp](http://www.yamanashi.ac.jp)
(電子メール題名は「連続市民講座申し込み」としてください。)

(2) 6/9 医工連携展示会 (東京医科歯科大学)

東京医科歯科大学は、朝日ビジネスプラットフォームと合同開催にて、下記イベントを開催します。医療系大学・公的機関・医療機器製販企業 22 団体の展示をはじめ、セミナープログラムも充実しています。是非ご来場ください。詳細はリンク先で確認下さい。

※リンク先 <http://www.ikou-commons.com/network/asahi20160609/>

●開催概要

1. 日 時 : 2016 年 6 月 9 日 (木) 13:00~17:00
2. 会 場 : 東京医科歯科大学 M&D タワー 26F ファカルティラウンジ
(JR 中央線・総武線御茶ノ水駅下車 御茶ノ水橋口)
(東京メトロ丸ノ内御茶ノ水駅下車 1 番出口)
3. 参加費 : 無料、入退場自由
4. 主 催 : 朝日ビジネスプラットフォーム、東京医科歯科大学

●プログラム

1. 13:15~13:30

「東京医科歯科大学の産学連携プログラムと窓口の紹介」

東京医科歯科大学 産学連携研究センター 技術移転部門長 渡辺 公義 氏

2. 13:40~13:55

「医療現場発ニーズ・シーズ紹介」

聖マリアンナ医科大学 / MPO 株式会社 代表取締役社長 天野 徹也 氏

3. 14:05~14:20

「電気通信大学における産学官連携への取組紹介」

電気通信大学 研究推進機構 産学官連携センター 森倉 晋 氏

4. 14:30~14:45

「医機連の紹介及び医療機器産業界の実態について」

一般社団法人日本医療機器産業連合会 医療機器政策調査研究所主任研究員
渡辺 秀樹 氏

5. 15:00~15:15

「医療ニーズに基づく医療機器開発のポイント」

一般社団法人日本医工ものづくりコモンズ 常任理事 谷下 一夫 氏

6. 15:25~15:40

「医療機器の EMC と製品安全試験」

沖エンジニアリング株式会社 取締役 EMC 事業部長 菊池 秀克 氏

7. 15:50~16:05

「平成 28 年度における医療機器産業の振興に向けた取組と支援策の紹介」

経済産業省関東経済産業局 地域経済部次世代産業課 課長 門田 靖 氏

8. 16:15~16:30

「東京都の医工連携事業について」

東京都産業労働局商工部創業支援課 課長 田代 純子 氏

●詳しい内容・お申込み方法につきましてはこちらよりご覧ください

<http://www.ikou-commons.com/network/asahi20160609/>

【お問合せ先】

朝日信用金庫 業務部

お客さまサポートセンター 産学官連携担当

担当：宝達（ほうたつ）・福島 TEL：03-3862-0304



03 プレス情報



4/28 井上克枝 医学部教授らによる研究論文が Blood 誌に掲載されました。

※ リンク先 <http://www.yamanashi.ac.jp/4458>

井上克枝 医学部教授（臨床検査医学講座）らによる研究が、血液学において最も権威ある雑誌「Blood」（米国血液学会）の「Inside Blood Commentaries」（エディトリアル）2016 年 3 月論文掲載号に取り上げられ、さらに表紙も飾りました。

内容は、2006 年に井上教授が発見した血小板・巨核球膜タンパク CLEC-2 のノックアウトマウスについて、本学で日本学術振興会特別研究員として当研究に携わってきた田村彰吾博士（現：名古屋大学助教）が、血小板減少を示すことに着目し、CLEC-2 を介した巨核球・血小板造血の調節機構の解析を行ったというものです。

同誌ではその新規性の高さを評価し、研究論文が本号に掲載されました。

田村博士は「今回の研究で、いまだ謎の多い血小板・巨核球造血の一側面が解明されました。本研究により得られた知見は、骨髄内造血微小環境の理解や血小板・巨核球関連疾患の病態解明に大きく貢献するものと思います。本研究の今後のさらなる発展が期待されます」と述べています。

□



- 1) このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。
- 2) メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有します。